

乳幼児に覚えられる漢字が小学生にはなぜ難しいのか

言葉は発せられるや否や消えてしまうので受け取りにくく、従って覚えにくい。漢字は覚えるまで待っていてくれるので覚えやすい。……それなら、小学校や中学校へ行って、なぜ漢字学習に苦しむのか。やっぱり、漢字は難しいのではないか。そういう疑問が起こるのも当然だと思います。

すべて、学習には、学習するのに適した時期があります。その時期に学べば容易に身に付きますが、その時期をはずすと、途端にひどく難しくなります。その「学習に適した時期」を“臨界期”と言います。

言葉の学習の臨界期は幼児期です。だれでも、四歳くらいまでの間に、母国語の大要を身に付けてしまいます。だから、四、五歳になって幼稚園に通うようになった幼児は、先生の話を理解することができ、また、自分の考えを他人に伝えることができるのです。

ところが、幼児期に、言葉を全く耳にすることなく育った場合、例えば、狼に育てられた少女カマラの場合など、言葉の学習はひどく困難なものでした。シング牧師夫妻の熱心な指導にもかかわらず、九年間に四

十五語しか覚えられなかった、と報告されています。臨界期内の幼児なら、三年間で二千語もの言葉が覚えられるというのに、臨界期を過ぎてから始めた学習では、九年間に四十五語しか覚えられなくなるのです。学習すべき時期(臨界期)を失うということは、何と恐しいことではありませんか。

漢字は“目で見える言葉”です。だから、漢字学習の臨界期は、言葉の学習の臨界期と同じく幼児期なのです。幼児期に学習すれば、二千字の漢字くらい、容易に覚えられますが、幼児期を過ぎますと、漢字を覚えるのがむずかしくなるのです。今まで、臨界期を過ぎてから漢字を学習させていたので、「漢字はむずかしい」と誤解されていたのです。